

会議録

会議の名称	西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会 第2回会議
開催日時	平成19年7月23日(月曜日)午後3時から午後5時まで
開催場所	保谷庁舎4階理事者室
出席者	委員：10名出席(順不同、敬称略) 葉養 正明(座長)、住田 佳子(副座長) 鶴田 清司、谷戸 美代子、嶋田 文子、塩沼 恵美子、菅野 美鈴、藤平 洋子、佐々木 英夫、浅倉 隆壽 事務局：青柳 昌一(教育企画課長) 保谷 俊章(教育企画課学務係長)、近藤 直(教育企画課学務係)、清水 達美(教育企画課企画調整係) コンサル：久保田 剛(都市環境計画研究所)
議題	1. 第1回会議 会議録の確認 2. 学校施設適正規模・適正配置について 3. 次回の会議日程について
会議資料の名称	・次第 ・平成19年度学校選択申立者アンケート結果 ・学校規模に関する定義(文部科学省標準・西東京市の現況、規模格差) ・通学区域内最長通学距離(小学校・中学校) ・小学校通学区域と中学校通学区域 ・クラス数と教員配置(平成19年度東京都公立小学校教職員定数配当一般方針、平成19年度小学校教職員定数配当基準表、平成19年度東京都公立中学校教職員定数配当一般方針、平成19年度中学校教職員定数配当基準表)
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	<p>【議題】</p> <p>1 第1回会議 会議録の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録の確認を行った。 <p>2 学校施設適正規模・適正配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より配布資料について説明 ・本日の配布資料についての質疑およびこれら資料を踏まえた自由討論を行った。 <p>学校選択制について</p> <p>アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの選択肢「本人の希望」は、その内容が何を意味しているか明確になっていない。(他の選択肢の複合ということもある。) ・年次ごとの推移が知りたい。 ・事務局：次回資料提供したい。

制度について

- ・ 選択できるようになったのはいいこと。
- ・ 定員オーバーの学校は、抽選の結果ではずれると本来の住所で指定された通学区域の学校へ行かざるを得ない。
- ・ 希望する学校へ行くために、家を探して引越する人までいる。
- ・ 事務局：18年度の入学までは、抽選を行ってない。19年度は、2校で実施した。(上向台小：入学枠5名、応募9名。保谷中：入学枠40名、応募63名)
- ・ 新小1、新中1の人数を事前(前年の秋などに)公表するのはどうか。
- ・ 情報として有用であると思うが、それ以上に学校の評判(特に悪い噂)の方が流れる。むしろ保護者としてはそちらが気になる。
- ・ 昔からの地域とのつながりという部分が弱くなった。(地域でいろいろと地域活動する上でもやりにくくなっている。)
- ・ 地域が大切になっている時代に逆行する流れになっている。

制度利用の要因について

- ・ 事務局：保谷中への応募が多い点は、部活動が活発という意見が多い。
- ・ 保谷中は、制服が変わったことでも、人気が出た。
- ・ 事務局：エアコンなどの学校施設の差で、一部の学校に希望者が集中することはないと思われる。

合併による通学区域、指定校変更特例措置の利用状況

- ・ 合併により、市の形がよくなった。
- ・ 他の通学区域を通して通う地域もある。(田無第二中)
- ・ 小学校の最長通学距離2,100mはどのように通っているのか。
- ・ 事務局：指定校は保谷第二小となっているが、指定校変更特例措置を利用し、新町5・6丁目は上向台小、新町2(一部)・3・4・5(一部)丁目は向台小、新町1・2丁目はそのまま保谷第二小へ通っている。現状は、この距離を通学することはなくなっている。

区域外通学の状況

- ・ 区域外通学については、受け入れ側の自治体の意向が優先される仕組みになっている。
- ・ 事務局：西東京市へ流入するケースはあまりない。練馬区との境で練馬区へ区域外通学するケースは見られる。

教員配置

- ・ 中学校15学級で、主要5科目の先生が各学年に1人ずついることになることから、15学級が適正という考えがさまざまな自治体で見られる。

適正規模・適正配置

- ・ (1) 通学距離、時間 (2) 学級数の適正規模 (3) 教員配置の3つのファクターが重なり合って、適正規模、適正配置の問題は成り立っている。
- ・ ある程度のまとまり(ゆるやかな範囲)の中で考えてみてはどうか。(北区では、中学校を単位としたファミリー制で検討を行った。)

- ・地域とのつながりがある程度守るという観点でよいと思うし、面白い構想であると思う。ただ各論に入ると線引きの部分での難しさはあると思う。
- ・たとえば、谷戸小と谷戸第二小、柳沢小と保谷第二小などのように距離的に近いものを考えていくことでもよいし、本町小と保谷中のように、小中連携、あるいは未来を展望しての一貫校という視点を入れるということも、将来へのビジョンとしてはあってもいいのではないか。
- ・一つの小学校区が複数の中学校区に分かれてしまうという小中学校の通学区域の不整合については、地域では、どのように受けとめられているのか。
- ・昔からの歴史の中で、当然のように受け入れていると思う。
- ・事務局：子育て支援計画では、市内を 5 ブロックに分けている。子育て支援計画のブロック範囲については、次回資料提供したい。

私学への進学状況について

- ・私学への進学状況については把握されているのか。
- ・事務局：年度によって傾向が異なるが、概ね私立小学校へは 5%程度、私立中学校へは 20~28%程度。
- ・経年変化を捉えることはできるのか。
- ・事務局：過去の集計では、私学への進学だけでなく、他市への転出や特別支援学級なども含まれているなど、同一の集計になっていないため難しい。

次回について

- ・(第3回): 8月22日(水曜日)午後3時より 保谷庁舎3階会議室にて
- ・児童福祉の5ブロックが学校を考える上でも利用できるのであればそれと連携することは望ましい。今回は、その範囲の中で、規模の問題、通学区域が納まるのか、そして選択制問題を絡ませて、議論を積み上げていくこととしたい。

以上